

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 7 部門第 2 区分
 【発行日】平成 17 年 12 月 15 日 (2005.12.15)

【公開番号】特開 2005-310856 (P2005-310856A)
 【公開日】平成 17 年 11 月 4 日 (2005.11.4)
 【年通号数】公開・登録公報 2005-043
 【出願番号】特願 2004-122504 (P2004-122504)
 【国際特許分類第 7 版】

H 0 1 F 1/06
 G 1 1 B 5/706
 G 1 1 B 5/712
 G 1 1 B 5/714
 H 0 1 F 1/04

【 F I 】

H 0 1 F 1/06 N
 G 1 1 B 5/706
 G 1 1 B 5/712
 G 1 1 B 5/714
 H 0 1 F 1/04 T

【手続補正書】
 【提出日】平成 17 年 10 月 18 日 (2005.10.18)
 【手続補正 1】
 【補正対象書類名】明細書
 【補正対象項目名】0 0 1 3
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【 0 0 1 3 】

このように、コバルトを表面近くに比較的多く存在させることにより、酸化の進行を抑制することが出来る。また、こうすることで、安定化時の温度レベルを抑制しても実質的に耐酸化レベルを上げることができ、表面に強固で厚い酸化皮膜を形成するときと同等もしくはそれ以上の耐酸化性が得られることがわかった。このため、発火温度を上昇させるべく磁気特性を犠牲にして耐酸化安定性を得ていた従来技術に比べると酸化膜の生成を抑制することが出来るので、磁気特性が維持された磁性粉を得ることが出来る。

【手続補正 2】
 【補正対象書類名】明細書
 【補正対象項目名】0 0 3 6
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【 0 0 3 6 】

〔粉体の磁気特性〕

粉体の磁気特性は、東栄工業株式会社製の VSM 装置 (VSM-7P) を使用して外部磁場 7 9 6 k A / m (1 0 k O e) で測定した。

【手続補正 3】
 【補正対象書類名】明細書
 【補正対象項目名】0 0 3 9
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【 0 0 3 9 】

〔テープ評価〕

供試粉末 100 重量部に対し以下の材料を下記組成となるような割合で配合して遠心ボールミルで 1 時間分散させて磁性塗料を作製する。得られた磁性塗料をポリエチレンテレフタレートからなるベースフィルム上にアプリケーションターを用いて塗布して磁気テープを作製し、その保磁力 H_{cx} を測定し、また、そのヒステリシスループから $SFD \times$ 値を算出する。磁気テープの磁気特性は前掲の VSM 装置を使用し、外部磁場 796 kA/m (10 kOe) で測定した。

| | |
|-----------|-------------------------------|
| 強磁性鉄合金粉末 | 100 重量部 (表 2 に記載の各例で得られた粉末) |
| ポリウレタン樹脂 | 30 重量部 (東洋紡株式会社製の UR - 8200) |
| 塩化ビニル系樹脂 | 30 重量部 (日本ゼオン株式会社製の MR - 110) |
| メチルエチルケトン | 190 重量部 |
| シクロヘキサノン | 80 重量部 |
| トルエン | 110 重量部 |
| ステアリン酸 | 1 重量部 |
| アセチルアセトン | 1 重量部 |
| アルミナ | 3 重量部 |
| カーボンブラック | 2 重量部 |

【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0041

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0041】

前記のオキシ水酸化鉄ケーキをミキサー (特殊機化工業株式会社製のホモミキサー) を用いて、回転速度 $5000 \text{ rpm} \times 10$ 分間で水中に解膠・分散させ、スラリー濃度 20 g/L のスラリー 1L を得た。